

- 遺跡は、豊岡盆地の東端に位置し、南西約1kmには出石川が北流する。小野川（六方川）の河川改修工事にともない発掘調査を実施し



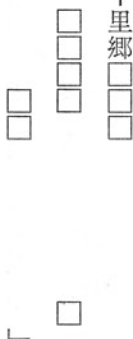
た。調査地は小野川の旧河道にあたり、しがらみを検出している。木簡(1)は九世紀代の木製祭祀遺物群と共に河道内より出土し、木簡(2)は層位からみて、(1)より新しいものと考えられる。祭祀遺物は墨書人形・馬形を含み、総数二〇〇〇点を

越える。墨書土器は五点出土し、「出石二」「西」「諸」「福（内面に墨書）」「开」と判読出来る。

(1) 交

(142) $\times 42 \times 6$ 011

(2) 下里郷 ☐ ☐ ☐



185×50×5 032

(2)は赤外線カメラにより判読した。下里郷は「但馬国太田文」の出石郡下里郷、『和名類聚抄』では資母郷にあたり、現在の出石郡但東町中山周辺に比定される。出石郷に属する砂入遺跡より出石川沿いに約二〇km上流にあたる。

(西口圭介)

